
僕だけ

snowman

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

僕だけ

【Nコード】

N5969C

【作者名】

snowman

【あらすじ】

僕だけを見て・僕だけの為に微笑んでいて欲しかったんだ。。「私だけ」「お前だけ」に関連するサイドストーリーです）（

1 ページ目

春が流れる。

軽やかな風が辺りの空気を入れ替えている。

友達はいなくなるし、バイトの仕事も出来る。

そんな毎日を送りながら、僕はいろんなものに苛まれている気がしてならない。

友達が多いが、好き嫌いが激しい。

仕事は出来るが、完璧主義。

上手く回れば良いのかもしれないが、崩れてしまつと手に負えない。バイトはそれなりに上手くいっていた。

3月。春が近づく時期。

バイト内でも入れ替わりがあった。

そして一番の動き。

仲の良かったバイト仲間が社員になる。

その子とは去年の夏から一緒に仕事をしだした。

むこうが僕の2ヶ月後に入ってきた。

始めはキッチンとホールでそこまで仲が良かったわけでは無かったけど、同い年ということもあり

だんだんと話すようになった。

その子はサバサバした口の悪い子で、何故かとてもウマが合った。

年が明けてバイトの新年会で一緒に幹事することになり、一気に距離が近付いた。

仕事が終わった後に相談したり、買出しに行ったり。

その合間に2人で買い物をしたり、お茶をしたり。

あまりに仲が良かったために、周りから勘違いされるほどだった。

僕自身はその子とどうこうなるつもりも無かったし、相手もまったく無いだろう。

「あたしなんかより、ずっと女の子みたいだ」

と言われてたし、実際僕は少し思考が女っぽいのかも知れない。

彼女はまさに僕の正反対で、大雑把で男っぽい子。

見た目は明らかに僕が男の子で、彼女は女の子で外見と中身を入れ替えた方が自然なくらい。

それでもやっぱり彼女は女の子だ。

どんなに疲れていても笑っているその笑顔は、どう見たって色の白い繊細な女の子。

話す機会が多くなって、いろんな話を聞いていけばいくほど見えてくる。

好きな人が結婚しているということ・片思いのままでも良いと思っていること・その人の前で一度も泣いたことが無いということ。人前で泣いたりしない彼女は、本当はとても繊細で弱い存在だ。

そんな彼女が、半年ぶりに好きな人に会うという。

もうすぐ誕生日で、プレゼントをあげたいから買い物に付き合っただけ欲しいと言われた。

胸糞が悪いとはこういうこと言うのだと思った。

二人きりの買い物は嬉しいのに、その見たことも無い彼女の好きな人のプレゼントを選ぶなんてイライラする。

出来るだけプレゼント選びという事を忘れて買い物を楽しもうとした。

彼女も僕の買い物にも快く付き合ってくれるし、「このジャケット良いよ！着てごらんよ」といって見立ててくれたりもした。

普通の買い物を楽しんでいる中でも、彼女はコレにしようか・・・

コレだと重いかな・・・なんて考え事をしている。
そしてフラツと立ち寄った雑貨屋さんで、彼女は「決めた」と言っ
てシルバーのシンプルなジップを指差した。
平然として「いいんじゃない？」と答えた。

気に入ったものが買えた彼女は、とても嬉しそうに紙袋を抱えて
駅まで歩く。

僕はつい「結局はどうなりたいの？」と問いかけてしまった。

きっと不倫をしたいとか思っているわけではなく、ただ好きな人に
プレゼントを渡すことに心弾ませているだけであろう。

それでも聞かずに居られなかった。

その時の僕はまるで、お気に入りのオモチャを取り上げられた子供
のようだった。

さつきまでとは違い、笑顔を曇らせた彼女は

「分かんない・・・」

と答えた。

彼女は笑顔が一番いいのに、曇らせてしまった。

「まあチューの一つくらい奪ってこい！」

とおどけながら言っと

「ありえないから！」

と言って痛そうに笑った。

この時すでに、僕が彼女を好きなことは明白だった。

天邪鬼な僕は決して認めたりはしないけれど・・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5969c/>

僕だけ

2010年10月10日03時43分発行